

金融もこなす事業会社へ

SMFL<sup>⑨</sup>

挑戦する企業



強固な財務基盤

「強固な財務基盤でコロナ禍でも長期的な視点で経営ができた」。三井住友ファイナンス&リース(SMFL)、三井住友銀行が出資する航空機リースのSMFLアビエーションキャピタル(AIC)のピーター・バレット最高経営責任者(CEO)は、財務面での支援をこう評価する。

航空機リース 世界2位

SMFLは2012年、英大手銀行から航空機リース事業を買収し、SMBCACを傘下に置いた。堅調に規模を拡大してきたがコロナ禍で航空需要が急落。SMFLはトランスポート・シヨ

衡策を取る中でも積極投資に踏み出した。22年にアイルランドのゴスホークを約2000億円で購入して航空機リースで世界2位に飛躍。さらに航空会社が保有する機体を買合えるようになった」と投資の意義を強調す

積極投資で「稼ぐ力」増強

部副統括責任役員の渡部信一郎は「20-22年度は会社の足を引っ張ることになった」と振り返る。ただ、SMFLは「19年頃から買い場を探っていた(渡部)ことから、コロナ禍で競合他社が防

リースで再び航空会社に提供するセール・アンド・リースバックを20年度にのみ実施した。渡部も「稼ぐ力が極めて強くなった」と自信をみせる。

事業拡大狙う

ただ、課題は拡大する資産の抑制だ。航空機の資産残高は3兆円を超え、連結営業資産残高の3割超を占める。そのため今後は「保有機体の比率を下げ、補修を請け負う管理機体の割合を上げたビジネスで事業拡大を狙う。」(敬称略)



SMBCACが手がける航空機

部 方針だ。バレットは管理において「長年蓄積してきたデータを活用した正確で高品質なサービスで差別化につなげられる」と強調する。

SMBCACは23年12月、カナダ年金基金と航空機投資に関する合弁会社を設立。調達資金で機体を購入し、SMBCACが管理する新しいビジネスに乗り出した。

今後、航空機リースで培った資産や航空機の専門性、ノウハウを生かした